商業簿記

第１問
20点

次の各取引について、仕訳しなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適当と思われるものを選ぶこと。

現金	当座預金	受取手形	売掛金	未収入金
未収還付消費税	前払金	建物	建物減価償却累計額	備品
創立費	株式交付費	売買目的有価証券	子会社株式	のれん
買掛金	未払金	前受金	仮受消費税	未払法人税等
資本金	資本準備金	利益剰余金	売上	受取利息
有価証券利息	保険差益	国庫補助金受贈益	仕入	保険料
支払手数料	固定資産売却損	固定資産除却損	固定資産圧縮損	火災損失
火災未決算	為替差損益			

１．株式1,000株を１株あたり￥4,000で発行し、払込金は全額当座預金口座に振り込まれた。なお、払込金額のうち２分の１は資本金として計上しないこととした。また、新株発行のための費用￥10,000は現金で支払った。

２．平成27年12月19日に売買目的のため社債（額面総額：￥9,000,000、利率：年7.3％、利払日：３月末と９月末の年２回、償還期間：８年）を額面@￥100につき@￥96.40の裸相場で購入し、代金は売買手数料￥36,000と端数利息を含め小切手を振り出して支払った。なお、端数利息は１年を365日として日割計算すること。

３．当期首に火災が発生し、建物（取得原価：￥5,000,000、残存価額：取得原価の10％、耐用年数：30年、当期首から18年前に取得）が焼失したため、ただちに保険会社に保険金を請求していたところ、本日、保険会社より保険金￥2,500,000を支払う旨の連絡を受けた。なお、当該建物は定額法（記帳方法は間接法）によって償却しており、火災が発生したときに、その帳簿価額を火災未決算勘定に振り替えている。

４．当期首において、新潟商店は、備品の取得を助成するため国より交付された補助金￥500,000を受け取り、当座預金としている。本日、上記補助金と自己資金により、備品￥1,500,000を取得し、代金は今月末に支払うことにした。なお、この備品については補助金に相当する額の圧縮記帳（直接控除方式）を行った。

５．茨城株式会社（決算は年１回、3月31日）は、平成×６年10月15日に、アメリカの得意先Ａ社より、売掛金400ドルに対する送金があったため、銀行において円貨に換算し当座預金口座に入金した。このときの直物為替相場は１ドル103円であった。なお、当該売掛金は、平成×６年９月10日にＡ社に商品400ドル（直物為替相場は１ドル105円）を掛けで輸出した際に生じたものである。